

事業内容		調査研究:新潟サロン 11月定例会	
テーマ		コミュニケーション・エラーを乗り越えよう!	
開催日		平成25年11月23日(土)	
会場		長岡市中央公民館	
講師・ファシリテーター		関川 1名	
企画運営担当		野本幸範、吉崎 2名	
参加者数(会員)		7	名
一般参加者数・見学者数		10	名
報告作成者		関川	
報告日		2013年11月28日	
その他特記事項			
ねらい		言葉の3つのレベルがコミュニケーションに与える影響を考えてみる。 ファシリテーションの基本にあるのは、メンバーとのコミュニケーション。よりよいコミュニケーションをするために自分自身の「言葉」の使い方を意識してみる。決めつけていませんか?	
プログラム概要		1.チェックイン 2.エクササイズ1「言葉のレベルの違い」 3.小講義 4.エクササイズ2「推論」「断定」 5.小講義 6.気づきの明確化 7.クロージング	
本日の気づき		<ul style="list-style-type: none"> <li>・two way わかちあいのコミュニケーションを</li> <li>・言葉は正確に捉え、確かな言葉(事実)からまずはスタートしたいと思いました</li> <li>・自分が話すときにも聴くときにも事実と推論を区別していなかったこと</li> <li>・たのしかったです!</li> <li>・夫婦といえども、自己世界の枠組みは異なる、変化していくということ</li> <li>・仕事の場面ではそうでもないが、家庭では断定が多いのに気づいた</li> <li>・断定はできるだけ避ける</li> <li>・何気なく言葉で伝えていたことが3つのレベルだったことを始めて気づいた</li> <li>・コミュニケーションギャップを3つのレベルで考える切り口は初めてでした</li> <li>・「考え方」について一考しました</li> </ul>	
満足度(合計)	35	3.50 (平均値)	
満足度の理由	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループメンバーとの相互の語り・意見交換がたくさん行えたこと</li> <li>・わかりやすく、スローで暖かい!</li> <li>・話がわかりやすく明日から即役立つことができる成果を頂いたので</li> <li>・理論に納得したこととワークが楽しかったこと</li> </ul>	
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もう少し深掘りした内容があるともっと嬉しいです</li> <li>・自分の話し方が自覚でき、その解決の仕方がわかった</li> <li>・言葉の伝え方・とらえ方などもわかると、なお良かった</li> <li>・2. 3のワークの狙いがいまいち理解できなかった</li> </ul>	
	2		
	1		
日頃の活動にとってどのような点で役に立ちそうでしょうか?		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「事実」を引き出すことが、??だと・・・(文字が判読できず)</li> <li>・家族(家庭内)とのコミュニケーション</li> <li>・まちづくりの現場で活かせる</li> <li>・相手の感情を大切にしていきたい</li> <li>・子供に対するコミュニケーション</li> <li>・会社・家庭でのコミュニケーションにプラスになる内容だった</li> <li>・「断定」がよく行われているように思うので、それを「事実」と「推論」にしっかりわけようと思う</li> <li>・明日のイベントのファシリテーター役&amp;日頃の職場でのコミュニケーション</li> <li>・日常で、家庭で、職場で</li> <li>・コミュニケーション分析の1つの構造として活用したい</li> </ul>	
属性・活用の場	ビジネス	3	
	NPO・まちづくり	4	
	行政	1	
	医療・福祉	3	
	教育	3	
	その他	2	
		16	
媒体	FB	3	
	Faniiメール	2	
	FAJホームページ	0	
	WWAのML	0	
	FAJ会員口コミ	4	
	会員以外のお口コミ	0	
その他		3	
		12	